

※2F展示室2「コレクションテーマ展示」は、1/7までに変更となりました。
1/18から「START☆みんなのミュージアム2020」の会場となります。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2F	展示室1	2018年度コレクション展Ⅳ (-5/20)		コレクション展Ⅰ (5/23-8/6)			コレクション展Ⅱ (8/8-10/28)		コレクション展Ⅲ (10/31-2/24)			コレクション展Ⅳ (2/27-)	
	展示室2	美術評論家 東野芳明と 戦後美術への旅 (-5/20)		チェコ・デザイン 100年の旅 (6/1-7/28)			「日本の美 美術×デザイン」 琳派、浮世絵版画から 現代へ (8/10-10/20)		コレクションテーマ展示 (10/31-2/24)			森村泰昌の あそぶ 美術史 -ほんきで あそぶと せかいは かわる- (3/7-5月上旬)	
	展示室3	わたしは どこにいる? サイン 道標をめぐる アートとデザイン (-5/19)											
	展示室4								瀧口修造/加納光於 《海燕のセミアティック》 2019 詩人と画家の 出会い 交流 創造 (11/1-12/25)		START☆ みんなの ミュージアム 2020 (1/18-2/24)		
3F	展示室5	4/9	デザインコレクションⅠ (4/11-7/15)			デザインコレクションⅡ (7/18-10/8)		デザインコレクションⅢ (10/10-1/7)			デザインコレクションⅣ (1/9-4月上旬)		
	展示室6	4/9	瀧口修造 オブジェショップ (4/11-7/15)			瀧口修造-夢の漂流物 (7/18-10/8)		瀧口修造 書齋という小宇宙 (10/10-1/7)			瀧口修造 私の心臓は時を刻む (1/9-4月上旬)		
						シモン・ゴールドベルク&山根美代子コレクション							

SCHEDULE

※記載内容は都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

企画展

コレクション展

わたしはどこにいる？ ^{サイン}道標をめぐるアートとデザイン

3月9日(土)－5月19日(日)

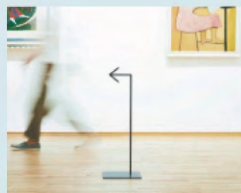
「サイン」とは、人を目的地に導く「目印」のこと。身の回りのあらゆる場所で、標識や案内板、矢印やピクトグラム(絵文字)といったさまざまなサインが存在しています。一方で、場所やそこに至る道程は、人間の生き方も分かちがたく結びついています。本展ではこの「サイン＝道標」に注目し、人間がどのように場所や空間を理解し、伝えようとしてきたのか、出品作家7名による作品と関連資料を通して「アート」と「デザイン」の双方から迫ります。

- 一般 900(700)円
- 大学生 450(350)円
- 一般前売り 700円
- ※()内は20名以上の団体料金

出品作家(五十音順)
秋山さやか、色部義昭、
葛西薫、康夏奈、佐藤修悦、
田村友一郎、廣村正彰



秋山さやか 滞在制作風景



富山県美術館 館内サイン
(サイン計画:色部義昭/監修:永井一正)

「日本の美 美術×デザイン」

琳派、浮世絵版画から現代へ

8月10日(土)－10月20日(日)

前期:8月10日(土)－9月16日(祝・月)
後期:9月21日(土)－10月20日(日)

※会期中に展示替えを行います。

日本美術の大きな特徴のひとつに装飾性が挙げられます。とくに琳派の流れは、大和絵の技法を基盤に、きらめくような「かざりの美」と洗練されたデザイン性をあわせ持ち、日本美術の一頂点として受け継がれ、工芸などあらゆるジャンルに浸透し、浮世絵などにも影響をあたえ、近・現代美術へと受け継がれていきます。本展では、琳派から浮世絵版画、ポスターまで、日本の美にみられる豊かな表現とデザイン性を、前期・後期に分けて紹介します。

- 一般 1,300(1,000)円
- 大学生 650(500)円
- 一般前売り 1,000円
- ※()内は20名以上の団体料金

START☆みんなのミュージアム2020

2020年1月18日(土)
－2月24日(月・振休)

学校(School)×富山(Toyama)×アート(ART)＝“START”。富山県内の小・中・高・特別支援学校の協力のもと、学校の児童生徒のみなさんが主役の展示会の第3回展です。学校とアーティストのコラボレーションによる作品展示や、ワークショップなど、2020年初春の富山県美術館にはアートを体感できるしかけがいっぱい。子どもも大人も先生たちも、めざせ☆美術館のスター!

- 一般 500(400)円
- 大学生 250(200)円
- ※()内は20名以上の団体料金



START☆みんなのミュージアム2019 展示風景



前回展のワークショップ風景
(富山市立寒江小学校×山口百子氏)

チェコ・デザイン 100年の旅

6月1日(土)－7月28日(日)

チェコ国立ブラハ工芸美術館の所蔵作品を中心に、19世紀末から現代までのチェコのデザインを紹介する展示会です。この約100年間のチェコでは、アル・ヌーヴォーの画家アルフォンス・ミュシャを筆頭に、キュビズムの影響を受けた建築、チャベック兄弟の絵本など、同時代の芸術表現と産業や民族性が融合したデザインが、美しき古都ブラハを中心に花開きました。家具、食器、ポスター、おもちゃ、アニメーションなどに見るその世界を、小さな旅のように楽しんでいただけます。

- 一般 900(700)円
- 大学生 450(350)円
- 一般前売り 700円
- ※()内は20名以上の団体料金



バヴェル・ヤナーク
《クリスタル型小物入れ》1911年
(チェコ国立ブラハ工芸美術館蔵)



アルフォンス・ミュシャ
《ジスモンダ》1894－1895年
(チェコ国立ブラハ工芸美術館蔵)

瀧口修造／加納光於《海燕のセミオティック》2019

詩人と画家の 出会い 交流 創造

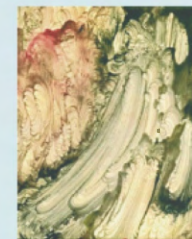
11月1日(金)－12月25日(水)

加納光於(1933年東京生まれ)は戦後を代表する美術家の一人です。加納は独学で銅版画を習得し、独創的な版画作品で国際的に高い評価を得ましたが、その才能をいち早く見出したのが富山県出身の詩人で、美術評論でも活躍した瀧口修造でした。この展示会では、初期から近年までの加納の作品を紹介するとともに、二人が共同で制作した作品やその交流を示す資料を合わせて展示し、強く共鳴し合った二人の精神と創造に光を当てます。

- 一般 900(700)円
- 大学生 450(350)円
- 一般前売り 700円
- ※()内は20名以上の団体料金



瀧口修造
《私の心臓は時を刻む》
1962年 当館蔵



加納光於
《稲妻捕り》Elements No.11
1977年

森村泰昌のあそぶ美術史

－ほんきであそぶとせかいはかわる－

2020年3月7日(土)－5月上旬

名画の登場人物や女優に自ら扮したセルフ・ポートレイトで国際的に活躍する美術家・森村泰昌(1951年大阪生まれ)。本展は、森村泰昌が考えた「ひっくりかえす」「ちがっているからおもしろい」「ほんきでまねるとほんものになる」などのキーワードを案内とし、ご来場のみなさん自身が「あそぶ」ことで富山県美術館のコレクションと「ともだち」になることができる展示会です。美術作品と「あそぶ」とは一体どんなことなのか、ぜひご体験ください。

- 一般 900(700)円
- 大学生 450(350)円
- 一般前売り 700円
- ※()内は20名以上の団体料金



森村泰昌《自画像の美術史
(レオナルドの顔が語ること)》2016年